



(写真) El Nacional “マドゥロ政権との交渉・選挙再参加を前に野党の状況を整理”

野党の状況整理

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

野党は常に3人の権力争い

選 挙管理委員会(CNE)の新役員が任命された。
今回の任命は、これまでよりも野党側に配慮
されたものになっている。

これを受け、グアイド政権も及び腰ながらマドゥロ
政権との対話を模索し始めた。また、主要野党内には
明確に選挙参加を求めるグループも増え始め、野党
分裂の可能性も現実的になっている。

本稿では、揺れ動く野党の状況を理解するため、野党
の主な政党・政治家のスタンスについて整理したい。

4月から新たにベネズエラについての情報を受ける
人も多い。弊記事では多くの政治家の名前が出てく
るが、顔と名前が一致していない人も多いのではな
いだろうか。

次ページの図は、野党の主な政党・政治家を示した
もの。野党は大きく分けると3つに分類される。

1つ目は「大衆意思党(VP)」率いるグアイド政権グ
ループ。2つ目は「第一正義党(PJ)」のカプリレス
元ミランダ州知事率いる選挙志向が強いグループ。
3つ目は「ベネズエラ主導党(VV)」のマチャド党首
率いるマドゥロ政権に対する一切の協議・妥協を許
容しない急進野党グループ。



ベネズエラで最後にまともな大統領選が行われたのは2012年・13年だが、この時に誰が野党の統一候補になるかとの議論があった。

この時に候補となっていたのは3人。

1人目は「第一正義党 (PJ)」のエンリケ・カプリレスミランダ州知事（当時）。

2人目は「大衆意思党 (VP)」のレオポルド・ロペス党首。

3人目は「ベネズエラ主導党 (VV)」のマリア・コリナ・マチャド党首。

グアイド政権は実質的にロペス党首がコントロールしていることを踏まえれば、今も昔もベネズエラの野党は、この3人が権力を争っているのが実態だ。

ロペス党首 Vs カプリレス元知事

ただし、この3人の中でマチャド VV 党首率いる急進野党グループは、スタンスが明確すぎて方針の変更余地がなく、他の意見を排除する傾向があるため野党をまとめる存在になり得ず、野党の中心に就いたことはない。

野党は「主要野党」を中心として動く。

主要野党は、ベネズエラでは「G4（ジーフォー）」とも呼ばれており、2015年の国会議員選で多くの議員が当選した4つの政党「大衆意思党 (VP)」 「行動民主党 (AD)」 「第一正義党 (PJ)」 「新時代党 (UNT)」 で構成される。

野党は、基本的にこの4つの政党の力関係で動いている。

現在の主要野党は、レオポルド・ロペス党首の VP が中心となっている（上図の赤い○で囲まれたグループ）。

VP は、主要野党の中で最も過激な政党。

VP の方針に準じて、グアイド政権は「マドゥロ政権との対立・制裁強化と抗議行動を通じた国内外の圧力」で政権交代を目指した。

米国トランプ政権の後押しもあり、VP の過激派のスタンスは加速。並行政府を発足し、欧米の資産をコントロール下に置き、石油取引を止めた。

しかし、この方針は限界に来ており、グアイド議長は「国家救済合意」と題して、与野党協議の再開を模索しているが、マドゥロ政権との関係修復はもはや不可能とも思える段階まで来ている。

野党はトップを変えなければ前に進めない段階まで来ている印象だ。

ここで新たな野党のトップになり得るのは、PJ のカプリレス元知事。カプリレス元知事は、水面下でマドゥロ政権と対話を続けており、多くの政治犯の解放に成功している。今回の野党系 CNE 役員2名の任命もカプリレス元知事の交渉の結果と言える。

現在カプリレス元知事は、上図の青い○で囲まれたグループを組織している。基本的には選挙参加の必要性を主張し、グアイド政権率いる主要野党を離れた政治家ばかりだ。

このグループを主要野党全体に拡大させるのがカプリレス元知事の狙いだろう。

今後の方向性が見えないグアイド政権(ロペス党首)の方針よりも、前向きな動きが期待できるカプリレス元知事の方針の方が野党に将来がある気がする。

AD トランプ政権の脅迫で選挙不参加？

元々「行動民主党(AD)」は、選挙参加を強く志向する政党であり、ADは潜在的にはカプリレス元知事のグループに加入し得る。

ラモス・アジュップ幹事長率いるADは20年の国会議員選に参加すると言われていた。実際にアジュップ幹事長は選挙に参加する必要性を訴えていた([「ベネズエラ・トゥデイ No.417」](#))。しかし、結局ADは国会議員選に参加しなかった。

この理由について、主要野党を離反したホセ・ブリト議員は、「トランプ政権がアジュップ幹事長に対して、彼の息子リカルド・ラモス・アンゴスティーノ氏の汚職調査を行うと脅したから」と暴露している。

アンゴスティーノ氏はPDVSAの内部情報を不正に入手し、石油会社に情報を流すことで利益を受けていた「Helsing」という会社の関係者だった([「Helsing」](#)については[「ウィークリーレポート No.37」](#)参照)。

アンゴスティーノ氏が汚職に関与している可能性は高く、その資金がADに流れていた可能性もある。米国に脅された場合、動くことはできないだろう。

バイデン政権に代わり、米国が対話を支持する方針が変わったため、ADは選挙参加の判断ができるようになるのではないかと。

UNT 主要野党の中で最も壊滅的

マニエル・ロサレス党首率いる「UNT」は、ほとんどの党員が離散してしまいUNTに残っている主要な政治家はほぼいない。

また、現在UNTで最も活動的なスターリン・ゴンサレス議員は、カプリレス氏と並び選挙参加を志向する議員。

UNTの主要な党員が離散した理由は、彼らが選挙参加を求めているため。

新たに「選挙管理委員会(CNE)」の副代表に就任したエンリケ・マルケス氏は、18年まではUNTの執行党首だった人物。しかし、選挙参加の必要性を主張し、主要野党でのポジションを失った。

2018年に行われた大統領選に出馬した「発展進歩党(AP)」のヘンリー・ファルコン党首と並び、穏健野党の代表格の一人として知られるティモテオ・サンブラーノ議員も元々「UNT」に所属していたが、選挙参加を希望し離党。彼が離党した際に10名のUNT所属議員も離党したという([「ベネズエラ・トゥデイ No.123」](#))。

また、ロサレス党首は汚職の噂が絶えず、政治的な意思も薄弱なように感じる。グアイド政権に属しているのも「グアイド政権にいれば、お金を得る機会があるから」という理由なのではないか。

UNTは主要野党の一角ではあるが、現在は政党としての力はほとんどない。他の主要野党の決定に従う政党になっている印象だ。

野党支持者の中の支持は急進派が多いが

以下はベネズエラの世論調査会社「Datanalisis」がベネズエラ人有権者を対象に行ったアンケート「彼／彼女の取り組みがベネズエラにとって良いものと評価しますか？」の結果（無回答可、複数回答可）。

野党ではファン・グアイド議長と急進野党のマリア・コリナ・マチャドVV党首が15.4%と最も高い。次はレオポルド・ロペス党首が12.2%。

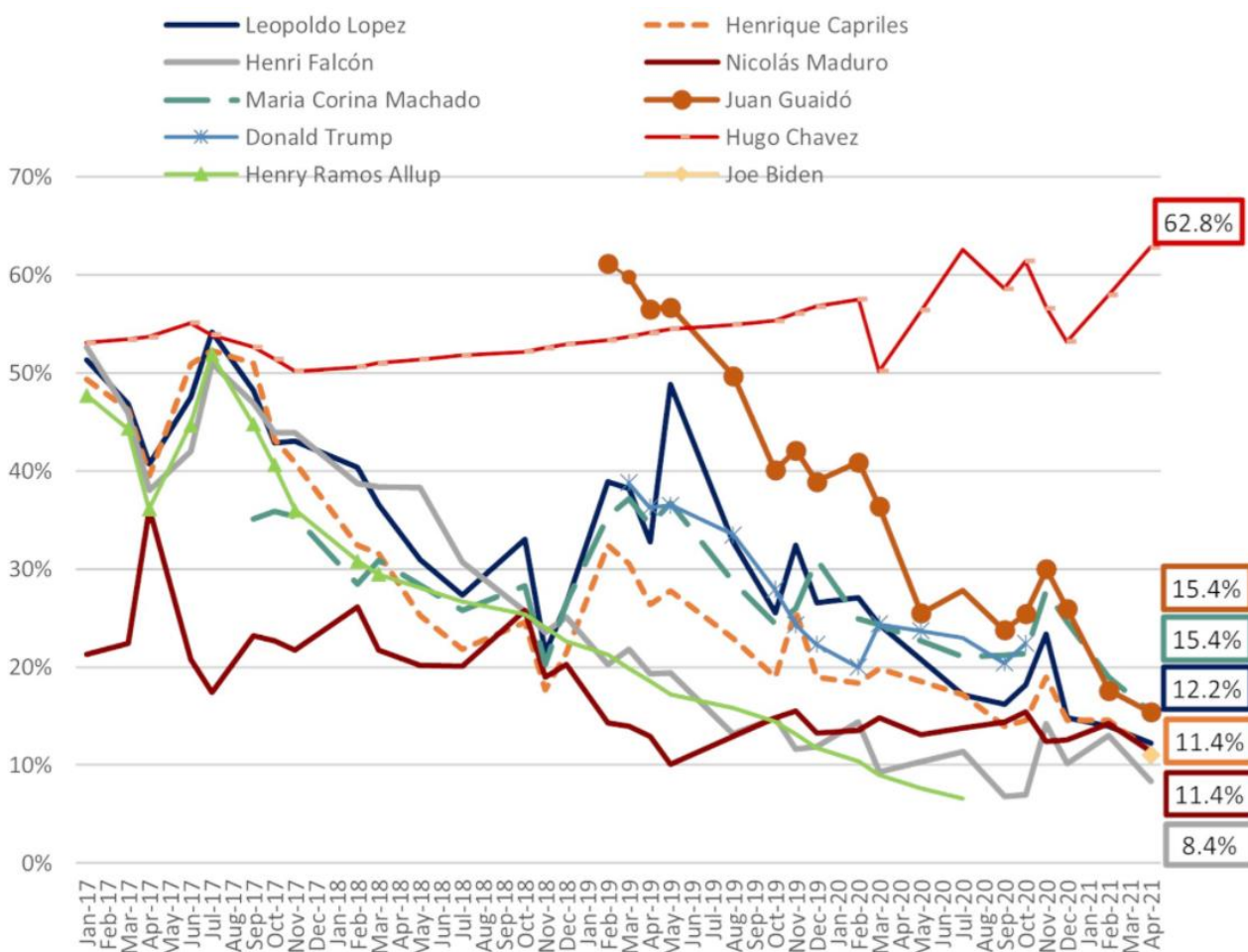
カプリレス元知事とマドゥロ大統領が11.4%。ファルコンAP党首が8.4%。

つまり、野党内で支持される政治家上位3人は今でも急進的な方針を掲げるグループであることを意味する。

ただ、本当に注目すべきなのは「チャベス大統領」を評価した62.8%のグループだ。

野党はいつも野党支持者の中で支持を奪い合っているが、本当に奪わなければいけない層は、チャベス大統領を評価している62.8%のマス層だ。

彼らを取り込むためにどのような方針を執るべきかを考えることができるかが野党再生のカギだろう。



*Original question: How would you rate the job he/she is doing for the well-being of the country?

以上